一人ひとりの幸せを願って

校長職を拝命し、異動のため約三十年ぶりに訪れた鶴南特別支援学校(当時は鶴南養護学校)は、校舎の増築や近隣の風景の変化など、多少変わった部分はあるものの、当時の面影はほぼ残っており、運動場の遊具や教室などを見て回ると、深い郷愁に駆られてしまった。

私は平成8年から平成16年までの八年間、鶴南特別支援学校の小学部の教師として在職していた。当時は二十代という若さもあり、知識や経験に乏しい分、とにかく子どもたちと一緒に勉強したり走り回ったり、何に対しても愚直に向き合っていたように感じるが、とても楽しかった記憶でもある。そんな思い出深い鶴南特別支援学校に、校長として約三十年ぶりに赴任できたことに改めて縁を感じている。

鶴南特別支援学校は長崎市蚊焼町に位置し、小学部・中学部・高等部を合わせると、約百七十名の児童生徒が在籍している。昨年度は時和特別支援学校が鶴南特別支援学校時津分校から本校化し、今年度からは、鶴南特別支援学校西彼杵分教室が時和特別支援学校西彼杵分校となったため、今年度からは本校と鶴南特別支援学校五島分校の2校になった。その五島分校にも令和3年から令和6年までの三年間、教頭として在職していたので、鶴南特別支援学校とは本当に縁があるのだろうとつくづく感じてしまう。

そんな思い出深い鶴南特別支援学校に赴任して、私はまず運動場の片隅の「山法師」のもとに向かった。「山法師」とは初夏を代表する木で、中心に多数の花が集まる頭状の花序を法師(僧兵)の坊主頭に、花びらに見える白い総苞片を白い頭巾に見立てたもので「山に咲く法師」(山法師)を意味すると言われている。この「山法師」の木は、私が当時担任をしていた学級の子どもが亡くなった際に、その子の保護者や職員と一緒に選んで植えた木である。山法師の花言葉は「友情」で、心を通わせる友人への感謝の気持ちや大切な絆を伝えるという意味から、当時の関係者で選定したという記憶がある。皆で植樹をした時には、私の身長より低かった山法師の木が、三十年経った今では空に向かって大きく成長し、太く育った枝や青々と茂る葉は、優しい木陰を作ってくれていた。たくましく成長する木々と鶴南特別支援学校の子どもたちの成長を重ね合わせながら、子どもたち一人ひとりの幸せのために、できる限りのことに取り組んでいこうと思う。